

◆ 幸町地区の現況について (補足資料)

【資料7-1】

① 旧呉海軍工廠塔時計 【大正10年設置】

終戦まで、呉工廠とともに歴史の時を刻む。昭和46年、移設展示。昭和56年、呉市有形文化財指定

② 旧高烏砲台火薬庫 【明治35年建設】

陸軍が建設した高烏砲台跡から昭和42年、移築復元。平成23年、国登録有形文化財に登録

③ 旧東郷家住宅離れ 【明治23年建築】

呉に在住していた東郷平八郎が、明治23年から住んでいた家の離れ座敷を昭和55年に移築・復元。平成9年、国登録有形文化財に登録

④ 郷土館【昭和54年建築】

⑤ 2号館【昭和42年建築】

⑥ 歴史民俗資料館(近世文書館) 【昭和61年建築】

旧呉鎮守府司令長官官舎とともに呉市入船山記念館を構成し、呉市立美術館と幸町地区の文化ゾーンを形成。呉市の歴史資料を展示しているが、設備の老朽化や展示資料の分散、収蔵スペース不足等の課題がある。

⑦ 旧呉鎮守府司令長官官舎 【明治38年建築】

呉鎮守府開設に伴い、明治22年に建設された軍政会議所兼水交社が、明治38年の大地震によって倒壊し、平屋建てに再建。平成4年から3年を掛け復原修理を実施。平成10年、国重要文化財指定



◆ 東郷元帥ゆかりのイチョウ

英国の造船所で建造された日本海軍の軍艦「比叡」の進水式の際、英国海軍官舎の庭に日本から贈られた銀杏が植樹された。「比叡」を東郷平八郎が日本に回航したことから、東郷元帥ゆかりの銀杏として語り継がれ、2020年7月、挿し木で得られた苗木を植樹

◆ 乙女椿

長者の娘と貧しい漁師の若者とが恋に落ちたが、結ばれることを許されず二人は海に身を投じた。娘のなきがらが流れ着いた呉浦に、椿が一輪の花を咲かせ、夜になると光を発し、舟人たちが夜の舟旅の目印にしたとの伝説が残っている。現在は2代目

⑧ 美術館 本館【昭和57年建築】

⑨ 美術館 別館【平成5年建築】

本館は展示室や講座室、別館は収蔵庫や喫茶コーナーがある。本館は開館から40年が経過し設備の老朽化が顕著となっていることや、収蔵機能が別棟にあることなど、運用上の課題がある。

⑩ 桜松館【昭和4年建築】

戦前は海軍の講堂、戦後は進駐軍の占領施設となった後、昭和33年より海上自衛隊の厚生施設となり、昭和55年からは、海上自衛隊呉音楽隊の庁舎として使用された。

⑪ 青山クラブ【昭和11年建築】

戦前は海軍の下士官兵集会所、戦後は呉市に駐留した英連邦占領軍が司令部を設置。司令部の移転後は、「呉ハウス」として使用。昭和33年より海上自衛隊の厚生施設となり、喫茶店や宿泊施設等として使用された。

【凡例】
 現在の動線
 - - - - - 過去にあったとされる動線
 川川 河川

引用:Google Map

◇ 幸町地区の現況について（補足資料）

【資料7-2】

	施設名	建築・建設年	延べ面積	現状・課題
【呉市入船山記念館】				
①	旧呉海軍工廠塔時計	大正10年 (1921年)	—	—
②	旧高鳥砲台火薬庫	明治35年 (1902年)	—	—
③	旧東郷家住宅離れ	明治23年 (1890年)	—	—
④	郷土館	昭和54年 (1979年)	358.4㎡	<ul style="list-style-type: none"> ・いずれの施設も、整備後長期間が経過し、設備が老朽化している。 ・資料の収蔵スペースが不足していることや資料が分散していることなど、運用面での課題がある。
⑤	2号館 (収蔵庫)	昭和42年 (1967年)	76.3㎡	
⑥	歴史民俗資料館 (近世文書館)	昭和61年 (1986年)	484.8㎡	
⑦	旧呉鎮守府司令長官官舎	明治38年 (1905年)	527.1㎡	<ul style="list-style-type: none"> ・平成10年に国の重要文化財に指定
【呉市立美術館】				
⑧	美術館 本館 (展示室)	昭和57年 (1982年)	2,790.9㎡	<ul style="list-style-type: none"> ・本館は、開館から40年が経過し、設備が老朽化している。 ・本館（展示室）と別館（収蔵庫）が離れており、運用上の課題がある。 ・本館の一部（屋根）が耐震基準を満たしていない。 ・「呉市公共施設に関する個別施設計画（令和3年3月策定）」において、令和14年度に建替えの方針が示されている。 ・本館の一部が土砂災害警戒区域内にあり、対策を講じる必要がある。
⑨	美術館 別館 (収蔵庫・喫茶)	平成5年 (1993年)	781.7㎡	
【未利用エリア】				
⑩	桜松館	昭和4年 (1929年)	1,963.7㎡	<ul style="list-style-type: none"> ・建物が耐震基準を満たしていないことや施設の老朽化により、建物の利活用に当たっては、改修方法の検討が必要。 ・現在、新たに建物基礎部等の調査を実施している。 ・青山クラブの一部が土砂災害特別警戒区域内にあるため、対策を講じる必要がある。
⑪	青山クラブ	昭和11年 (1936年)	10,927.2㎡	